

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 17 週(4 月 4 週 4/24 ~ 4/30)・

18 週(5 月 1 週 5/1 ~ 5/7)合併号

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

今週の内容

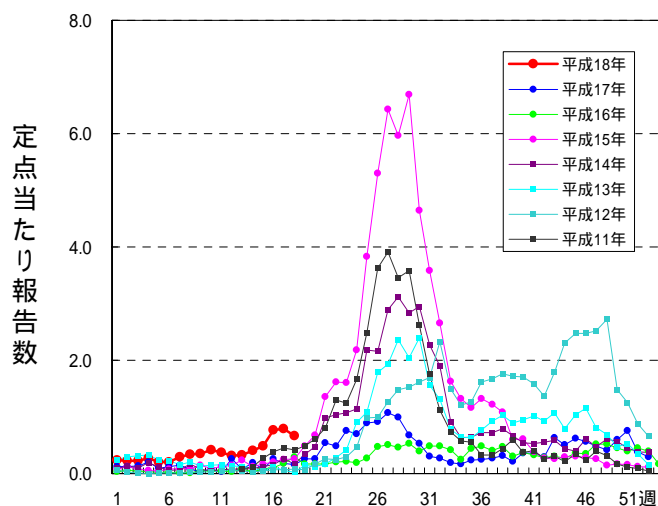
- ・これから注意する感染症
- ・病原体検出情報
- ・定点医療機関コメント
- ・全数把握感染症発生状況
- ・感染症だより(4月後半)
- ・WHO 疫学週報抄訳
2006 年 4 月 28 日(81 巻 17 号)
2006 年 5 月 3 日(81 巻 18 号)
- ・五類定点把握感染症報告数
(保健所別、年齢別)

これから注意する感染症

手足口病

定点当たり報告数は 0.66 人で、先週までと比較して大きな変化はみられません
が、定点医療機関からの患者発生コメントが増加しています。また、昨年度 10 月
以降、当所に搬入された手足口病患者検体 34 件のうち 17 件からエンテロウイルス
71 型が分離されており、このウイルスによる今後の流行が心配されます(次ページ
参照)。

手足口病



愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

手足口病 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/natsu.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご
覧ください。

病原体検査情報

(1)平成 18 年 3 月末までに発症した患者からの検出状況

2006 年 5 月 1 日現在

	感染性 胃腸炎	手足 口病	ヘル パン ギー ナ	咽 頭 結 膜 熱	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	急 性 脳 炎	イン フル エン ザ
患者数	325(246)	58(34)	84(2)	9	58(43)	38(16)	16(8)	275(254)
PV-1	2(2)	-	-	-	-	-	-	-
PV-2	2(2)	-	-	-	-	-	-	-
PV-3	2(1)	-	1	-	-	-	-	-
CV-A4	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A5	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A6	-	7	15	-	-	-	1	-
CV-A10	-	2	31	-	-	-	-	-
CV-A14	-	1	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	11(5)	-	-	-	1	-	-
EV-71	-	17(17)	-	-	-	1(1)	-	-
CV-A9	3(3)	-	-	-	-	1(1)	-	-
CV-B2	1(1)	-	-	-	-	-	-	-
CV-B3	1(1)	-	1(1)	-	-	2	-	-
CV-B4	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
CV-B5	-	-	-	-	-	1(1)	-	-
E-3	1	-	-	1	-	-	-	-
E-7	1	-	-	-	-	-	-	-
E-30	-	-	-	-	-	1	-	-
HPeV-1	7(2)	1	-	-	-	-	-	-
FluA(H1)	-	-	-	-	-	-	-	80(80)
FluA(H3)	-	-	-	-	-	-	-	123(108)
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	8(7)
Reo 2	1(1)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A	4	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G1	36(33)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G2	1(1)	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G3	5(2)	-	-	-	-	-	-	-
NV-G2	60(55)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	2(1)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	11(9)	2(1)	-	-	-	-	-	1(1)
Ad-3	2	-	-	4	8(6)	-	-	-
Ad-4	-	-	-	-	4(3)	-	-	-
Ad-5	-	-	-	1	-	-	1(1)	1(1)
Ad-8	-	-	-	-	8(2)	-	-	-
Ad-31	2(2)	-	-	-	-	-	-	-
Ad-37	-	-	-	-	2	-	-	-
Ad-41	10(8)	-	-	-	-	-	-	-
HSV-1	-	-	1	-	-	-	-	-
検査中	12(12)	-	-	-	16(16)	1(1)	-	6(6)
陰性	172(120)	17(11)	33(1)	3	20(16)	30(12)	14(7)	55(50)

注:()内に10月以降の患者数を再掲しました。

PV:ポリオウイルス

CV:コクサッキーウイルス

E:エコーウイルス

EV-71:エンテロウイルス71型

HPeV:ヒトパレコウイルス

Flu.A(H1) :Aソ連型インフルエンザウイルス

Flu.A(H3) :A香港型インフルエンザウイルス

Flu.B :B型インフルエンザウイルス

Reo 2:レオウイルス2型

Rota A :A群ロタウイルス

NV-G2:ノロウイルス(遺伝子型G2)

Ad:アデノウイルス

HSV:単純ヘルペスウイルス

(2) 平成 18 年 4 月以降に発症した患者からの検出状況

2006 年 5 月 1 日現在

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	7	-	-	-	2	-	1	1
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	1
Rota A-G1	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	1	-	-	-	-	-	-	-
検査中	5	-	-	-	2	-	1	-

Flu.B : B型インフルエンザウイルス
Rota A-G1: A群ロタウイルス(遺伝子型1)
Ad: アデノウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く） - 17 週報告分 -

尾張西部地区

数日続く高熱と咳の症例多いです。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
病原性大腸菌 O74 1 歳男
マイコプラズマ肺炎 14 名
アデノウイルス感染症、エンテロウイルス感染症増加中です
【一宮市 城後小児科】
インフルエンザ B 型 3 人発生
【一宮市 一宮市立市民病院】

2 週続けて咽頭培養にて A 群溶連菌の検出された検体が 1 ダースを超えました。
【犬山市 武内医院】
溶連菌感染症多し。
インフルエンザ A 型 2 例同じ小学校です。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
1 歳男 ロタウイルス (+)
【春日町 丹羽医院】
インフルエンザ 1 名 (15 才女子) B 型
【津島市 田中こどもクリニック】

尾張東部地区

溶連菌感染、感染性胃腸炎が多い
病原大腸菌 O74 4 歳女、3 歳女、
O18 4 歳男
水痘も多い
手足口病みられます
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
溶連菌感染症が多くみられました。
その他、水痘、手足口病、流行性耳下腺炎など。
【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】
33 歳男 キャンピロバクター腸炎
40 歳女 黄色ブ菌感染性腸炎
【豊明市 豊明団地診療所】

アデノウイルス感染症が続いています。
【春日井市 春日井市民病院】
水痘多数
感染性胃腸炎少々
アデノ感染症、ムンプス少々
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
水痘例のうち 1 例はワクチン歴ありです。
【春日井市 竹内医院】
ロタ 3 名入院
A 型インフルエンザ 1 名入院中
胃腸かぜが再び増加傾向
【小牧市 小牧市民病院】
相変わらず感染性胃腸炎が多いです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

マイコプラズマ肺炎流行
【美浜町 厚生連知多厚生病院】
水痘症 小流行
【南知多町 医療法人大岩医院】

手足口病、流行性耳下腺炎小流行
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
胃腸炎多いです。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳男 ロタウイルス腸炎
2歳男女、7歳女 キャピリアアデノ
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
病原性大腸菌O25(+) 8歳男
水痘も多くなりました
【岡崎市 花田こどもクリニック】
アデノウイルス感染症、溶連菌感染症、
水痘症、手足口病が散見
ヘルパンギーナ 11ヶ月女児
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院】
A型インフルエンザ 8歳女2名
アデノ(+) 3歳男
【岡崎市 にいのみ小児科】
インフルエンザB(+) 13歳女児
インフルエンザB(+) 中学生
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
インフルエンザB型1名、予防接種1回
済み
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】

水痘、溶連菌感染症目立ちます。
【碧南市 永井小児クリニック】
インフルエンザ 検体数1 B型
【安城市 厚生連安城更生病院】
溶連菌感染症 13名
マイコプラズマ肺炎 3名
【知立市 宮谷クリニック】
4歳男病原性大腸菌O6V T-、カンピロ
バクター
アデノウイルス感染症 1歳・6歳・3歳男、
3歳・4歳女
【幸田町 とみた小児科】
カンピロバクター腸炎 34歳男
【西尾市 山岸クリニック】
水痘が多くみられます。
【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

1歳女 ヘルペス歯肉口内炎
【豊橋市 医療法人野村小児科】
インフルエンザB型 3人
【豊橋市 医療法人山本内科】

1歳男 B型インフルエンザ(ワクチン2回
接種)あり。
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

定点医療機関コメント(名古屋市除く) - 18週報告分 -

尾張西部地区

感染性腸炎 軽症ですがやや多いです。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
感染性胃腸炎流行
【一宮市 後藤小児科医院】
マイコプラズマ肺炎 4名
エンテロウイルス感染症が増加しました。
溶連菌患者が続いております。
【一宮市 城後小児科】

感染性胃腸炎が目立ちます。
【一宮市 一宮市立市民病院】
嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが多い様です。
【春日町 丹羽医院】
咽頭での培養は、インフルエンザ様>ブド
ウ球菌>A群溶連菌で、ブドウ球菌が増え
てきました。
咽頭結膜熱も増加してきました。
水溶下痢が多い様です。
【犬山市 武内医院】

インフルエンザA 2例ありました。
RSにかわり、メタニューモウイルス感
染増えています。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

感染性胃腸炎の流行続いています。
手足口病、伝染性紅斑少数みられています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】

尾張東部地区

感染性胃腸炎多い
病原大腸菌O1 2歳女
溶連菌感染症も多い
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
特に目立った感染症はみられませんでした。
溶連菌感染症が多くみられました。
水痘、溶連菌、手足口病等。
【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】
水痘が増えています。
【春日井市 春日井市民病院】
水痘とムンプス多発
胃腸かぜ、アデノ感染症少々
マイコプラズマ肺炎3例
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ロタ入院5名
アデノ肺炎・咽頭炎入院2名
B型インフルエンザが3名あった
その他胃腸炎多数
【小牧市 小牧市民病院】
感染性胃腸炎が多いです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
市内乳幼児施設内で、呼吸器感染症の流行
に悩まされています。
肺炎も何例か出ていますが、病因がはっきり
しません。
【小牧市 志水こどもクリニック】
手足口病が出始めています。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳男、8歳女 キャピリアアデノ(+)
4歳男、5歳女、8歳男 StrepA(+)
4歳男 サルモネラO9
10歳女 キャンピロバクター腸炎
3歳男 Ecoli(O1)
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
アデノウイルス感染症、溶連菌感染症、
散見されます。
インフルエンザ抗原迅速検査時々しま
すが、陽性者いません。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院】
アデノ(+)10歳女、1歳男、5歳女、
5歳男、3歳男(2人)、3歳女
病原性大腸菌O1(+)VT(-)7歳男
【岡崎市 にいのみ小児科】
アデノウイルス滲出性扁桃炎 5歳女
児、3歳女児、8歳男児、1歳男児
病原性大腸菌O6 4歳男児
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

水痘が目立っています。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
インフルエンザ 内科の2名 B型
【安城市 厚生連安城更生病院】
水痘、溶連菌感染症 引き続き目立ちます
【碧南市 永井小児クリニック】
インフルエンザBが1人いました
【刈谷市 まついこどもクリニック】
マイコプラズマ感染症が多い
【知立市 宮谷クリニック】
インフルエンザB 15歳男
ヘルパンギーナ 1歳女、2歳男、32歳女
(母子)
手足口病 3歳男 4歳男
【西尾市 やすい小児科】
1歳女アデノウイルス感染症
3歳男アデノウイルス感染症
3歳男病原性大腸菌(O1VT-)
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

アデノ扁桃炎 1歳男

連休中、水痘、EBと思われる患者目立ちました。

ヘルペス歯肉口内炎 1歳男

【豊橋市 医療法人野村小児科】

【豊川市 豊川市民病院】

田原市の1~2の保育園にて水痘が流行。

【田原市 かわせ小児科】

四類・五類（全数把握）感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<17週報告分>

つつが虫病 1例

レジオネラ症 2例（69歳、81歳）

梅毒 1例（早期顕症 期、推定感染地域:国内、推定感染経路：性的接触、16週報の再掲）

大型連休が終わって朝夕の通勤通学電車が混雑するようになり、そろそろ五月病 = 以前は学生用語でしたが最近是新入社員に多発しているようですが = の季節到来です。いつも貴重な情報を有難うございます。4月後半のまとめをお送りします。

1) 名古屋市内：城北病院渡辺先生からは急性胃腸炎が増加、ロタウイルス陽性例があるがアデノウイルス陽性例はほとんどなし、高熱疾患も増加、時間外患者が多く、時にインフルエンザ陽性者あり、アデノウイルス感染者も多い。溶連菌感染症も多く時に発疹出現例もあり、マイコプラズマ感染症は横這いで RS ウイルス性細気管支炎はほとんどなし、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザはいなくなり、ロタウイルス散発、肺炎の入院が多い、千種区今枝先生からは感染症は少なく感染性胃腸炎がぼつぼつ、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎 3 名（病原性大腸菌 0 - 074、- 08、- 111 各 1 名で入院例 1 名）、A 群溶連菌が 1 名、水痘 1 名、マイコプラズマ性気管支炎が時々あり、肺炎（マイコ含む）気管支炎の入院 9 名ありとのお手紙でした。

2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、A 群溶連菌咽頭炎、水痘がそれぞれ散発中、常滑市民病院高橋先生からは 4 月 20 日にインフルエンザ A 型が 1 例、ヘルペス性歯肉口内炎が数名、手足口病も数人あり、ロタウイルス胃腸炎が目立ち、マイコプラズマ肺炎の入院が多く（乳幼児も目立つ）、アデノウイルス扁桃炎の入院 1 例ありとのお手紙でした。

3) 三河地区：刈谷市田和先生からは水痘が少し目立ち、溶連菌感染症とムンプスがパラパラ見られた、碧南市永井先生からは水痘と溶連菌感染症が目立つ、豊橋市宮澤先生からはムンプス、水痘、手足口病、アデノウイルス咽頭炎、ロタウイルス腸炎など、いずれも数例とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2006 年 4 月 28 日（81 巻 17 号）<http://www.who.int/entity/wer/2006/wer8117/en/index.html>

ポリオ。野生株伝播中断の進捗状況：05 年 1 月～06 年 3 月の WHO ポリオ根絶作戦の成果の概略。1) ポリオ生ワク（OPV）定期接種：世界全体で乳幼児の OPV 3 回接種率は 04 年には 80%と推定され、アフリカ地域全体で 69%、欧州地域で 94%、国によって差が大きく、野生株常在国ではナイジェリアで 39%、アフガニスタン 66%、パキスタン 65%、インド 70%である。地域単位の努力が進むコンゴ共和国やエチオピアの定期接種率向上が目立っている。2) 定期外の補充接種活動(Supplementary Immunization Activities, SIAs)：05 年には SIAs として OPV による全国一斉接種日(National Immunization Days NIDs)が世界で 153 回、地区一斉接種日(Subnational Immunization Days, SNIDs)が 69 回、戸別地域絨毯爆撃的接種(mob-up)キャンペーンが 12 回、計 234 回の SIAs が 5 歳以下の小児 3 億 7 千百名に実施された。3) 急性弛緩性麻痺(AFP)サーベイランスとウイルス検査室診断：サーベイランス網の精度管理は 非ポリオウイルスによる AFP 報告が 15 歳以下小児人口 10 万当り 1 例以上であること、検査に適切な便材料が 80%以上の例から採取されること、WHO 認可検査室における検査率の目標は 100%、とされ(05 年には AFP 報告が小児人口 10 万当たり 2 例以上に改正) 調査結果はウイルス分離依頼材料数は増加しているが 95%は 28 日以内にウイルス分離結果、その 95%以上の型内同定結果が 14 日以内に WHO に報告されていた。4) 野生株ポリオの頻度：06 年 3 月 31 日時点で 05 年の世界のポリオ野生株患者は 1,948 例(04 年は 1,255 例) 増加の主因はナイジェリアの流行とそれまで非流行地区であったイエメン、インドネシア、ソマリアへの輸入であり、エジプトとニジェールにも輸入されたがその後根絶、アジアの常在国であったインド、パキスタンでは減少、根絶に近づきつつあり、アフガニスタンでは 04 年の 4 例が 05 年には 9 例に増加。ナイジェリアでは 1 型と 3 型が流行、北部 6 州に常在し南部に波及、3 型ウイルス野生株は北部ナイジェリアとインドの限られた 2 地区、アフガニスタンで分離されている。従来ポリオ非流行地区で 03 年から流行が発生した 22 カ国のうち 8 カ国(アンゴラ、バングラデシュ、チャド、エチオピア、インドネシア、ネパール、ソマリア、イエメン)から 05 年中期以降発生報告があり、うちチャド以外のアフリカ諸国は 06 年には新規発生なく、イエメンとインドネシアの大発生も 05 年末をピークとして SIAs 普及で減少、ソマリアの流行は首都モガディシオの発生が内戦などで対策困難、北部に拡大中。また、インドネシア東部ジャワでは 1 型野生株流行とワクチン関連ポリオが同時発生している。

4 月 22 - 27 日届出。コレラ：アンゴラ、リベリア、マラウィ、ザンビア。

2006 年 5 月 5 日（81 巻 18 号）<http://www.who.int/entity/wer/2006/wer8118/en/index.html>

メジナ虫（注：別名ギニア虫、Dracunculiasis。経口感染寄生虫症。線虫。中間宿主はミジンコ。感染ミジンコで汚染された生水を飲んで感染。体内で成熟した雌虫から下肢（足関節）の皮膚を足を水にひたしている間に破り仔虫を排出、仔虫をミジンコが摂食。雌虫が皮膚を破る際、激しい痛みと運動障害があり日常活動が大きく制限される。以前はアフリカ全域、イン

ドなど熱帯アジアに広く分布していたが WHO / ユニセフなどの「安全な水供給」活動普及＝生水を飲まない教育、飲料水の消毒と水源確保で減少している）。世界の近況：根絶計画の進捗により 04 年に世界全体で常在国が 11 カ国であったのが 05 年には 9 カ国に減少した。本報は最近の概略である。1) 1989 - 2005 年の年度別報告数は 89 年の 892,055 例から確実に減少、05 年には 10,674 例となっていて（年別グラフあり）04 年に比し 33%減となっている。2) エチオピアとソマリアを除く全ての常在国で例数は減少。3) 土着例と輸入例をあわせた常在 9 カ国の 05 年報告例数はスーダン 5,569、ガーナ 3,981、マリ 659、ニジェール 183、ナイジェリア 120、トーゴ 73、エチオピア 37、ブルキナファソ 30、象牙海岸 10（一覧表あり）。4) 非常在、根絶達成国ではウガンダ（輸入例 9）、ケニア（同 2 例）、ベニン（同 1 例）、カメルーン、中央アフリカ、チャド、モーリタニア（いずれもゼロ）となっている（一覧表あり）。5) 常在国の国別年度別の詳細なグラフと地図、各国の国別の最近の発生状況の報告あり（略）。6) イラン南部、バンダル・アバス市で発生の噂があり、WHO 専門家の調査では否定的であった。

鳥インフルエンザ（注：これまで本情報では鶏や家鴨など家禽と渡り鳥など野鳥をあわせて鳥類一般のインフルエンザウイルス感染を「鳥インフルエンザ(Avian Influenza)」と記載し、鶏舎における鶏の大発生を「鶏インフルエンザ(Poultry Influenza)」としました。今後その予定です）。アゼルバイジャン（黒海西岸の旧ソ連国。世界有数の産油国。首都バクー）。人の A (H5N1) 感染例：3 月 4 日 6 例（1 例は重症）の患者が呼吸器症状でバクーの呼吸器研究専門病院に入院、隔離。3 月 6 日同国保健省が WHO 欧州事務局に 9 例（死亡 2）の報告。8 例は同一家族、1 例は隣家、バクー東南地区居住。3 月 7 日 5 例はタミフル 3 日投与後完治、帰宅。3 月 13 日、カイロの米海軍センターによりバクーにインフルエンザウイルスの PCR 法による検査室設置、死亡例を含む 5 例の材料が A (H5) 陽性。英国 WHO 検査センターで A (H5N1) 確認。本報は保健省の依頼による WHO の専門家による調査の概略である（注：アゼルバイジャンの第一報はすでに本週報 81 巻 12 号に掲載済み。本報は続報）。1) 専門家の勧告に応じた当局の対応：a) バクーとその周辺地区の調査。鶏舎における鶏の大量死なし。野鳥の調査は法により狩猟が厳しく制限されていて情報収集が困難であった。b) 地域保健担当者による戸別訪問サーベイランスが 3 月 1 日開始、4 月 22 日時点で 22 例（死亡 6）が入院。c) 検査室診断：3 月 27 日時点で 20 例の疑い例と 32 例の接触者から血液、ぬぐい液など計 108 検体を採取。PCR 法による核酸検査、HA 抗体価測定、ウイルス分離が実施された。検出ウイルスは 06 年 2 月に同国やイランで白鳥から、それ以前にトルコ、イラク、エジプトの人感染例から検出されたウイルスと同一であった。d) 治療：疑い例はバクーをはじめ各地区呼吸器専門病院に搬入（呼吸管理は一部の病院で可能）。タミフル投与。患者の接触者監視は地区保健担当者が実施した。2) 発生地区における人感染例者の感染源調査：a) 06 年 2 月に白鳥の大量自然死があり、発病者が接触していた可能性は大きい。b) 鶏舎における鶏の大量死の報告はなかった。

4 月 28 日 - 5 月 4 日届出。コレラ：アンゴラ、ジンバブエ。

